

## 人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	協力的・参加的・体験的な学習を効果的に進めている実践事例
-------	------------------------------

### 1. 基本情報

○都道府県名及び市町村名

福岡県豊前市

○学校名

福岡県立青豊高等学校

○学校のURL

<http://seiho.fku.ed.jp/>

### 2. 学校紹介

○学級数

【通常の学級】 各学年8クラス      【合計】 24クラス

○児童生徒数

【全生徒数】 950人（平成26年5月1日現在）  
（内訳：全日制総合学科 1年生320人、2年生319人、3年生311人）

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【青豊高校の使命（ミッション）】

「明日の社会を担う人間の育成」

【教育目標】

生徒一人一人が生涯にわたって一社会人として心豊かに主体的、創造的、個性的に生きていくための資質や能力を育むとともに、激しく変化していく社会環境の中で自らの将来を積極的に企画設計し、その実現に向けて果敢にチャレンジし続け、明日の社会を担っていく逞しい人間を育成する。

【校訓】

賢く、優しく、逞しく

Hトライアングル

賢く→Head：自ら学び考え、自ら判断・行動する。

優しく→Heart：思いやりの心とモラル意識を持ち、社会に貢献する。

逞しく→Hand：技を磨き力を蓄え、チャレンジし続ける。

【人権教育の目標】

- 人権が尊重される授業づくり
- 生徒の実態を把握し、人権を大切にする環境づくり
- 安心で安全な学校づくり

○人権教育に係る取組一口メモ

人権教育を通じて育てたい資質・能力の一つであるコミュニケーション能力の育成を目指し、小中学校と連携して授業研究を行っている。

## ○人権教育にかかる取組の全体概要

- 人権が尊重される授業づくり
  - (1) 3年間の系統的な人権教育を目指す。
    - ・3年間の見通しをもったカリキュラムを構成する。
  - (2) 人権教育の系統的指導プログラム開発指定校事業（福岡県教育委員会指定）を進める。
    - ・小中学校と連携し、実践的な研究を行う。
  - (3) すべての教科・科目において、人権尊重の視点からの授業づくりを目指す。
    - ・学習指導案等の中で人権尊重の視点を明確にする。
- 生徒の実態を把握し、人権が尊重される環境づくり
  - (1) 生徒の情報を共有する。
    - ・中高連絡会や、相談コーナー、カウンセリングなどで得た情報を共有する。
  - (2) 学年、修学支援、人権教育推進委員会、生徒指導部、管理職の連携を密にする。
    - ・学校全体で生徒の問題に取り組めるように工夫する。
- 安心して安全な、人権が尊重される学校づくり
  - (1) 自他の人権を尊重し、安心安全な環境と人間関係を構築できるようにする。
    - ・自分の居場所があり、安心して生活できる環境づくりをする。
  - (2) 相談ポストを有効活用する。
    - ・相談ポストの存在を周知し、悩みがあれば相談するよう呼びかける。
  - (3) いじめ対策委員会を充実させる。
    - ・問題発生の前に事例について学習し、対策を考える。
  - (4) 学校生活アンケート・いじめアンケートを実施する。
    - ・生徒指導部と連携し、効率的・機能的なアンケートの実施方法を確立する。

生徒作品の掲示



全校生徒による作品



生徒に見通しをもたせる学年別の週予定

学年	行事予定
3年	3月10日 運動会
3年	3月20日 卒業式
3年	3月31日 入学式
3年	4月1日 始業式
3年	4月2日 入学式

### 3. 特色ある実践事例の内容

#### 【生徒の潜在能力を引き出す「トマト作戦」】

本校は「賢く (Head) 優しく (Heart) 遅しく (Hand)」の校訓のもと、キャッチフレーズ「夢をカタチに！」を掲げ、自ら学び、自らチャレンジし続ける生徒の育成を目指している。一株の枝から一万個以上の実を実らせるトマトのように無限の可能性を秘めた生徒の潜在能力を引き出すため、「トマト作戦」と名付けて、以下の3つの取組を行っている。

- マイライセンス運動
  - ・三年間で一人一資格以上取得する。
- マイボランティア運動
  - ・一人年間一つボランティア活動を体験する。
- マイチャレンジ運動
  - ・一人年間一目標設定し、目標達成に向けて努力する。

この取組は、生徒の進路目標を定め、夢の実現に向けて進んでいく原動力であるとともに、生徒の自己肯定感や自尊感情を高め、コミュニケーション能力育成につながる相乗効果の高い取組である。



【人権教育の系統的指導プログラム開発指定校事業の取組】

本事業は、校区の実態をふまえ、人権感覚育成のために必要とされる「人間関係調整能力」「コミュニケーション能力」「想像力・共感的理解力」のうちの一つを小中高共通のテーマとして、教科の授業の中でどのように育てるかを研究している。本校では同校区の小中学校と連携して、コミュニケーション能力の育成に取り組んでいる。

① 研究主題

「コミュニケーションを通じて自他共の成長に結びつける効果的な学習指導の在り方に関する研究 ～交流活動を位置づけた学習展開を通して～」

② 主題設定の理由

本校の生徒の中には、友人とのコミュニケーションがうまくとれない生徒がいる。そのため、自分の考えと違う相手の意見を尊重し、傾聴する姿勢を身につけることが必要だと考えた。交流活動を通して得られる共感や協働する喜びを味わい、自他共にその人間性のすばらしさを認めながら他者の痛みや感情を受容できる想像力や感受性をもつことは、自己肯定感を高めるものであり、コミュニケーション能力育成の上で意義がある。

③ 研究の目標

自己の考えや意見を分かりやすく伝え、他者からのメッセージを的確に理解するコミュニケーション能力を育成するための学習指導の在り方について明らかにする。

④ 取組の内容

○ 小中学校・高等学校12年間を通じたコミュニケーション能力育成のための系統表（《資料1》）の作成

コミュニケーション能力を「聴く」力・「話す」力・「伝え合う」力・「関係を作り出す」力と捉え、小中高それぞれの発達段階に応じ、身につけさせたい力を系統的にまとめた。

《資料1》小中学校・高等学校12年間を通じたコミュニケーション能力育成のための系統表

児童生徒に身につけさせたいコミュニケーション能力（検討用）												
	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
目標とする児童生徒	目指す子どもの姿（行動形「コミュニケーション科」カリキュラムより）											
「聴く」力	感謝の心をもつ。相手の話をよく聞き、相手を温かく見守ることができる。	相手のことを考え、やさしく話し、相よくする。	誰に対しても真心をもって話し、互いに理解し、信頼し、助け合う。	相手の気持ちや考え、態度に対しても温かいで互いに協力し合う。	自分の役割や責任を考え、互いに高め合い、尊重し合う。	意見をもち、自ら考え、判断し、相手のことを考えて協力し、互いに理解する。	人間関係の大切さを自覚し、誰に対しても温かい心で接する。	公私の別を明らかにし、自分の意見を尊重し、お互いに協力し、相手の意見に対して温かく接する。	自分の役割と責任を自覚し、お互いに協力し、相手の意見に対して温かく接する。	相手に共感しながら自分の考えを伝えることができる。	相手の立場や意見を理解することによって自分の考えを伝えることができる。	社会の中での自分のあり方を理解し、積極的に集団に貢献できる態度をもつ。
「話す」力	自分の考えをみんなの前で話すことができる。	自分の考えを最後まではっきりと話すことができる。	自分の考えを相手にわかりやすく話すことができる。	自分の考えと友だちの考えを比べながら話すことができる。	相手の立場や考えを自分のものとして受け止めながら話すことができる。	自分の考えを相手に分けるように論理的に話すことができる。	相手の考えと比べながら話すことができる。	自分の考えを相手に分けるように論理的に話すことができる。	相手の考えと比べながら話すことができる。	自分の考えを論理的に話すことができると共に適切な声量や態度などを用いて効果的に自分の考えを表現できる。	相手に伝わりやすいようによく話を構成できる。	長年時の人や異性など多様な他者に応じた適切な発語ができる。
「伝え合う」力	分からないことや詳しく聞きたいことを尋ねたり、それを答えたりすることができる。	互いの考えの相違点や共通点を考えながら、合意点を見つけようとして伝え合うことができる。	話し合いの目的を考えながら、話題に沿って伝え合うことができる。	話し合いの方向をとらえて伝え合うことができる。	話し合いの目的に沿って効果的に話し合うように伝え合うことができる。	話し合いの方向をとらえて伝え合うことができる。	話し合いの目的に沿って効果的に話し合うように伝え合うことができる。	話し合いの方向をとらえて伝え合うことができる。	話し合いの目的に沿って効果的に話し合うように伝え合うことができる。	意見の違いがあっても客観的な立場で伝えることができる。	お互いの話を明確に理解しながら自分の意見を伝えられる。	リーダー、フォロワーシップを確立して、相手の能力を引き出してチームワークを高めることができる。
「関係を作り出す」力	友だちの考えを受け止めながら、人とかがわることができる。	友だちの考えを受け止めながら、人とかがわることができる。	様々な思いや考えを尊重しながら人とかがわることができる。	相手のよき面を理解し、尊重しようとする。相手の意見を認めながら、豊かに人とかがわることができる。	相手のよき面を理解し、尊重しようとする。相手の意見を認めながら、豊かに人とかがわることができる。	相手のよき面を理解し、尊重しようとする。相手の意見を認めながら、豊かに人とかがわることができる。	相手のよき面を理解し、尊重しようとする。相手の意見を認めながら、豊かに人とかがわることができる。	相手のよき面を理解し、尊重しようとする。相手の意見を認めながら、豊かに人とかがわることができる。	相手のよき面を理解し、尊重しようとする。相手の意見を認めながら、豊かに人とかがわることができる。	行事や体験を通して、集団の申に自ら加わることができる。	対話を通して自ら深く考え、相互に考えを伝え合える。	集団を形成し、他者との連携を積極的に図ることができる。

○ コミュニケーション能力育成のための目標設定

コミュニケーション能力の四つの力を育成するために、各教科での具体的な目標を立てて授業に臨んだ。((資料2》参照)

《資料2》

教科	コミュニケーション能力育成のための具体的な目標 (抜粋)
国語	授業の中で、話合いや意見を発表する場を設けることで、自身の考えを効果的に話そうとする姿勢を養うとともに、相手の立場や考えを尊重し、表現を工夫する態度を育てる。
数学	問われている内容や式の意味する内容を自分の言葉に置き換えて考えたり、思考の過程を明確にし、伝えたい内容を要約させることを通して、他者に論理的に説明する能力を養う。
理科	仮説を立てて観察や実験を行い、結果を考察し、レポートにまとめたり、発表を行うことで、自分の考えを他者に正確に伝えるための表現力を身につけさせる。

○ 講師招聘による手立てのスキルアップ

授業のスキルアップのために、大学教授を講師として招聘し、模擬授業を通してエンカウンター等、生徒のコミュニケーション能力を育成する具体的手法を学んだ。また、コミュニケーション能力育成についての評価方法や具体的な学習指導案の作成についても、各教科の共通認識を図った。

○ 交流活動の位置づけ

他者の意見や価値観を尊重しながら傾聴する姿勢を身につけさせるために自分の考えや意見を交換する少人数(2~5人程度)での交流活動を全教科科目の授業に位置づけた。

#### 4. 実施する際に生じた課題及びその解決策

【交流を苦手と感じる生徒へのコミュニケーション能力を育成する手立て】

- 「聴く」力の育成については、聴く方法を繰り返し指導する。
- 「話す」力の育成については、発表の仕方を理解させ、伝える内容を整理し、発表させる。
- 「伝え合う」力の育成については、ペアからグループへと人数を段階的に増やす等の工夫を通して、小集団で交流する経験を積ませる。

【教職員の共通理解】

- 年1回は、必ず他の授業を参観し、自分の授業に生かす。
- 授業の中で、生徒が受け入れられていると実感できる発問や生徒が自分の考えや意見を表現する機会を増やす。
- 「コミュニケーション能力」アンケート(自作)のすべての項目で数値が低い生徒に対しては、授業担当者やクラス担任が授業やHR活動で、その生徒に配慮した取組を行い、継続して様子を見ていく。また、アンケート結果については教職員全員で共有する。
- 職員研修で学んだ「エンカウンター」「カウンセリング」等を日常的な人間関係づくりに役立てる。



## 5. 実践事例の実績、実施による効果

### 【取組の実績】

- ① 人権教育を通じて育てたい資質・能力を育成する小中高のプログラムづくり
  - 研究指定校の児童生徒の実態、育てたい子供の姿に即したコミュニケーション能力の定義づけをした。
  - 授業研究や児童生徒の実態をもとに、系統表の見直しを随時行った。
  - 高校はコースや授業の選択により生徒の身につける能力の時期が異なるので、系統表に「卒業後に求められる社会人像」を新しく加えることで目的をより明確にした。
- ② 人権教育を通じて育てたい資質・能力の育成に関する小中高の連携の在り方
  - コミュニケーション能力育成のための交流活動の在り方について、共通理解を図るために、研究指定校連絡会を定期的で開催した。
  - 学習指導の中で児童生徒にどのような力をつけていくべきか協議し、指導内容・方法の工夫・改善を図るために、研究指定校の授業交流を行った。

### 【実施の効果】

- ① 生徒の意識の変化について  
全体的な傾向としては概ね苦手意識を改善しており、1年生よりも2年生が「改善したと思う」と解答した生徒が多かった。（《資料3》参照）

《資料3》コミュニケーション能力が向上したと思うかどうか？

（平成25年度の第2回アンケート結果より）

	改善したと思う	以前と変化なし	悪くなったと思う
全体	54%	17%	29%
個別	80%	4%	16%

※「個別」とは4月に実施した第1回アンケートで「コミュニケーションをとるのが苦手」と答えた生徒の中で、特に「苦手」である生徒を対象に統計を出している。

- ② 教員について
  - 学習指導案に教科の指導目標と併せて、人権教育を通じて育てたい資質・能力の指導目標を明示することで、それぞれの目標達成のための手立てが明確になり、指導内容・方法の工夫・改善が進んだ。  
（《資料4》、《資料5》参照）  
※ 学習指導案の学習の展開における教員の支援について  
人権教育を通じて育てたい資質・能力の育成に関わる部分に下線を引いている。
  - 研究指定校の授業交流を行うことで、発達段階に応じた交流活動の在り方や、その手立てについて整理することができた。

《資料4》コミュニケーション能力を育成する授業の実践事例1

第2学年保健体育科（保健）学習指導案（略案）

○ 単元名 生涯を通じる健康

○ 単元指導目標（到達目標）

関心・意欲・態度：生涯の各段階における健康課題に対し、保健・医療制度を適切に活用しようとする。

思考・判断：生涯にわたる健康の保持増進を図るために、自らの健康管理や健康的な生活行動に関し、適切に意思決定する。

知識・理解：健康を保持増進するにはそれを支える社会環境づくりが重要であることを理解する。

技能・表現：保健・医療などの社会的資源の適切な活用について、自分の価値観に合った選択ができる。

○ 指導計画（単元の配当時間）

- |                 |       |                   |              |
|-----------------|-------|-------------------|--------------|
| (1) 思春期と健康      | … 1時間 | (7) 高齢者のための社会的取組  | … 1時間        |
| (2) 性意識と性行動の選択  | … 1時間 | (8) 保険制度とその活用     | … 1時間        |
| (3) 結婚生活と健康     | … 1時間 | (9) 医療制度とその活用     | … 2時間（本時2/2） |
| (4) 妊娠・出産と健康    | … 2時間 | (10) 医療品と健康       | … 1時間        |
| (5) 家族計画と人工妊娠中絶 | … 2時間 | (11) さまざまな保健活動や対策 | … 1時間        |
| (6) 加齢と健康       | … 1時間 |                   |              |

○ 本時

(1) 本時の指導目標（到達目標）

○ 教科の指導目標


医師や医療機関の活用について関心を持ち、仲間の意見を聞き、話し合いに参加できるようになる。また、医師や医療機関の選択については、自他の意見や考えを比較・整理し、自分の価値観に合った選択ができるようになる。

○ 人権教育を通じて育てたい資質・能力の指導目標

他者の立場に立ち、その人に必要なことを共感的に理解することができるようになる。

(2) 学習の展開（本時）

過程	学習活動	教員の支援	教材	配当時間	学習形態	評価
導入	○本時の目標を確認する。	○本時の指導目標を説明する。	教科書	5分	一斉	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     目当て：医師や医療機関の選択について互いに考えを交流し、自分の考えをまとめよう。また、他者の意見にしっかりと耳を傾け、その意見を批判せず尊重し、共有しよう。                 </div>					

展 開	<p>○医師や医療機関の選択について自分の考えをまとめ、ワークシートを記入する。</p> <p>○ワークシートを配布する。</p>	ワークシート	10分	一斉		
	<p>○グループを編成する。</p> <p>○6～7人のグループを編成し机を向かい合わせる。</p>		2分	一斉	<p>グループワーク</p>	
展 開	<p>○グループに分かれてブレインストーミングをする。</p> <p>・「信頼できる医師とは」</p> <p>・「医療機関を選ぶ条件」</p> <p>○各自の意見を述べ、テーマに係る多様な考え方や共感的理解が進むよう意見交流する。</p>	<p>○付箋を各グループに配布する。</p> <p>○自分の考えを付箋に記入させ、机上の用紙に貼り付けさせる。</p> <p>○<u>自分の考えと比較しながら意見交流させることで、多様な考え方があることを理解させる。</u></p> <p>○<u>「共に学びあう仲間」と実感できる雰囲気をつくるため、他者の意見を批判せず受容する姿勢を持たせる。</u></p>	付箋	17分	班別	<p>○積極的に参加しようとしている。 (知識・理解) (思考・判断)</p>
	 <p>意見交流</p>		15分	班別	<p>○傾聴ができる。 (関心・意欲・態度)</p> <p>○他者の意見を尊重し、共感しようとしている。 (技能・表現)</p>	
ま と め	<p>○他の人の意見を聞いて、自分なりの考えをまとめる。</p>	<p>○<u>意見交流をふまえ、自分の考えの変容について記述させる。</u></p>	教科書	3分	一斉	<p>○意見交流の内容を反映させ、まとめている。</p>



《資料5》コミュニケーション能力を育成する授業の実践事例2

第1学年家庭基礎学習指導案（略案）

○ 単元名 食事の計画と調理

○ 単元指導目標（到達目標） 関心・意欲・態度：自分や家族の食生活に関心を持ち、意欲的に学習に取り組んでいる。

知識・理解：既習事項をもとにして、食品群別摂取量の目安を理解する。

思考・判断：食品群別摂取量の目安を活用し、家族の嗜好をふまえた献立を考えることができる。

技能・表現：食生活の自立に必要な基礎的な調理ができる。

○ 指導計画（単元の配当時間）

・第1次 食事摂取基準と食品群別摂取量のめやす・・・1時間

・第2次 家族の食事計画・・・2時間（本時2/2）

・第3次 調理から後かたづけまで・・・9時間

○ 本時

（1）本時の指導目標

○ 教科の指導目標

食品群別摂取量について、めやすと比較し、過不足を改善する手立てを考えることによって理解を深める。

○ 人権教育を通じて育てたい資質・能力の指導目標

他者との話し合いを行うことにより、自分の考えを表現しながら他者を認める態度を養う。

（2）本時の展開（本時）

過程	学習活動	教員の支援	教材	配当時間	学習形態	評価
導入	○各自食品群別摂取量のめやすに沿って献立を作成したことを確認する。話し合いの手順、判断のポイント、発表方法について確認する。	・本時の学習内容について説明する。 ・話し合いの判断のポイントは、食品群別摂取量のめやすに適合しているか、食品数が適切か、調理方法が工夫されているか等であること、発表の方法を説明する。	教科書 ワークシート	5分	一斉	

目当て：仲間と意見を出し合い、より良い献立を作ろう。						
展 開 1	○班ごとの話し合い ・各自が献立を提示し、長所や短所を述べる。相互評価によりよい献立を選び、さらに改善を加えるために検討する。	・机間指導し、話し合いがスムーズに進むよう指導する。 ・ <u>工夫された献立のすぐれている点について説明し、他者を認める態度を養う。</u> ・ <u>目標に到達していない献立も、工夫されている点、更に考えを深めるとよくなる点について助言する。</u>	ワークシート	20分	班別	○食品群別摂取量のめやすについて理解を深めたか。 (知識・理解)
	○発表準備	・わかりやすく提示しやすい点をアピールするためにどうしたらよいか考えさせる。		5分	班別	
展 開 2	○発表	・それぞれの班の発表に講評を加え、 <u>どのような点が工夫されているか</u> 考えさせる。		10分	一斉	○発表の方法を工夫し、表現力を身につけているか。 (技能・表現)
ま と め	○食品群別摂取量のめやすに基づいた献立作成の重要性を確認する。	・食生活は健康維持のために重要であることをおさえる。 ・ライフステージごとに食品の摂取量は変える必要があることを具体例で説明する。		10分	一斉	

## 6. 実践事例についての評価

### 【研究の成果と課題】

本年度は、各教員が自己の取組を総括することで、更にコミュニケーション能力育成の取組が充実・深化するよう、指導内容・方法等の工夫・改善に取り組んでいる。

#### 〈成果〉

- ・生徒のコミュニケーション能力に対する自己評価が高まった。
- ・各教員の授業改善に対する意識が高まった。
- ・系統表の検討・作成を通じて、小中高の人権教育に関する理解が深まった。
- ・学習指導案をはじめとして、人権が尊重される学校づくりを更に充実させるための実践的な資料が作成できた。

#### 〈課題〉

- ・生徒のコミュニケーション能力に対する自己評価が高まったことに対し、個々の授業がどのように効果的であったのかを詳細に検証する。
- ・成果を教員個人の授業改善に終わらせず、教科や学校全体で更に共有できる体制づくりをする。
- ・系統表をより完成度の高いものにしていく。

## 【人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント】

### 福岡県立青豊高等学校

人権教育を展開する際には、人権教育の目標と各教科等の目標やねらいとの関連を明確にする必要がある。本事例では、人権教育を通じて育てたい資質・能力の技能的側面の一つであるコミュニケーション能力の育成を目指し、授業研究等が行われている。

児童・生徒は、小学校→中学校→高等学校のように、学習の場を移しながら成長していく。人権教育の推進に当たっては、児童・生徒の成長過程全体を見通し、それぞれの発達段階に応じた学習活動を計画することが必要である。

本事例においては、小・中・高等学校の12年間を通じてコミュニケーション能力を育成するための系統表が、紹介されている。校種間において、学習計画の調整や相互協力、相互研修を目的とした取組など、連携の在り方を工夫し、人権教育に関わる取組をより系統的に展開する際に参考となる事例である。